

複合動詞「あげる・あがる」の 前項動詞拡張について

高 原 愛

1. はじめに

本稿では、従来の文法的なルールや型から逸脱した言語表現を取り上げる。具体的には複合動詞後項「あげる・あがる」の前項動詞の拡張についてである。複合動詞についての研究には影山（1993）があり、そこでは動詞を他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞の3つに分類し、複合動詞の形成において、複合される動詞は同じ項構造を持たなければならないという「他動性調和の原則」を提唱している。一方、「あがる」においては、アスペクトの用法を持つ場合は、(1a)のように事象完了の結果何らかの産物が発生することを意味し、「他動性調和の原則」の違反が認められるとしている。しかし(2a)のように産物が発生するにも拘らず違和感を覚えるものもある。

(1)a. セーターが編みあがる。

b. セーターを編みあげる。

(2)a. *作品が作りあがる。

b. 作品を作りあげる。

(2)のような不適格に感じられるものも、(3)のように使用している例が見受けられる。

(3) ああ懐かしい。寮生活しているときにこれでよくラーメン作りました。作りあがる前にガスが切れないかいつもドギマギしました。(Twitter の高度な検索：検索キー「作りあがる」／きなこ @jiyuuna_kinako・2019年2月14日)

以上のように複合動詞の形成については「他動性調和の原則」が一般的に注目されているが、これに違反していると思われる複合動詞も存在する。また、違反が認められているものに関しても成立条件に当てはまらないものもある。そこで、後項動詞「あげる・あがる」につく前項動詞は語彙的に制限されているはずだが、拡張しつつあると考え、意味的な観点から分析を行う。調査方法としては、アンケート調査と用例採集調査を行う。また、後述する姫野（1976）における複合動詞「～あげる」「～あがる」の意味分類では、(1)(2b)は完了の意味にあたとされている。本稿では完了の意味を担う複合動詞「～あげる」「～あがる」について取り上げる。

2. 先行研究

2.1 複合動詞の語構成

ここでは複合動詞の語構成に関する研究を確認する。複合動詞の語構成については、影山（1993）の分析が知られている。影山（1993）では複合動詞は大きく「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」の二つに分けられると述べられている。「語彙的複合動詞」は具体的には「飛び上がる、押し開ける、受け取る」などで補文関係を取らないものである。動作の様態・手段、付帯状況、並行動作、アスペクトなど様々な意味関係が観察され、意味の不透明化や語彙化が進んでいる。一方、「統語的複合動詞」は補文関係を取るものを指す。例えば、「話し始める」があり、「話すことを始める」のように前項動詞が後項動詞の目的語となる。こちらは意味の慣習化は見られないとされている。さらに影山（1993）で注目すべきは「他動性調和の原則」である。これは複合動詞の形成において、複合される動詞は同じ項構造を持たなければならないという原則である。分析の基準として動詞を他動詞（例：建てる、たたく、壊す…）、非能格自動詞（例：遊ぶ、働く、泣く…）、非対格自動詞（例：ある、着く、落ちる…）に3分類している。大まかな目安としては、非能格自動詞は意図的な動作主などを主語にとる意志的な自動詞、非対格自動詞は意図性のない物体も主語に

とる無意志的な自動詞であると考えてよい。これら3つの中で、他動詞と非能格自動詞は外項を持つため同じ項構造であり、非対格自動詞は内項だけで外項を持たないため、違うタイプである。要するに、以下のようなタイプは複合動詞として形成されないということである。

非対格+他動詞：*売れ飛ばす、*揺れ起こす、*あきれ返す

非能格+非対格：*目が泣きはれる、*走りころぶ

非対格+非能格：*ころび降りる、*崩れ降りる、*あふれ降りる

しかし、影山（2013）ではアスペクトの用法を持つ動詞が後項に位置する複合動詞では「他動性調和の原則」の違反率が高いことも述べられている。

2.2 動詞の分類

ここでは、複合動詞「～あげる」「～あがる」に限らずアスペクトの観点で動詞を分類している先行研究を確認する。アスペクトの観点から動詞の分類について述べた研究としては工藤（1995）が挙げられる。工藤（1995）ではアスペクトは、〈他の出来事との外的時間関係のなかで、運動内部の時間的展開の姿を捉える〉ものであって、複数の出来事間の時間関係を表し分けるというテキスト的機能を果たすとある。また、現代日本語の動詞をアスペクト対立の有無の観点から3分類し、そこから下位分類としてさらに細かく分類している。以下、動詞の全体的分類を表1にまとめておく。

表1 動詞の分類

外的 運動 動詞	主体動作・ 客体変化動詞 [内的限界動詞]	①客体の状態変化・位置変化を引き起こす動詞【他】	あげる・けす・まげる
		②所有関係の変化を引き起こす動詞【他】	あげる・うる・かす
	主体変化動詞 [内的限界動詞]	①主体変化・主体動作動詞	きる・ぬぐ・はく
		②人の意志的な（位置・姿勢）変化動詞【自】	あつまる・のる・けっこんする
		③ものの無意志的な（位置・姿勢）変化動詞【自】	かたまる・ぬれる・おちる

複合動詞「あげる・あがる」の前項動詞拡張について

	主体動作動詞 [非内的限界動詞]	①主体動詞・客体動き動詞【他】	うごかす・こぐ・もやす
		②主体動作・客体接触動詞【他】	おす・かむ・なぐる
		③人の認識活動・言語活動・表現活動動詞【他】	みる・かぞえる・うたう
		④人の意志的動作動詞【自】	あそぶ・およぐ・あるく
		⑤人の長期的動作動詞	いとなむ・くらす・すむ
		⑥ものの非意志的な動き（現象）動詞【自】	うごく・とぶ・かがやく
内的情態動詞	[非内的限界動詞]	思考動詞	おもう・わかる・ねがう
		感情動詞	あきらめる・あこがれる・おどろく
		知覚動詞	かんじる・きこえる・におう
		感覚動詞	いたむ・つかれる・ふるえる
静態動詞		存在動詞	ある・いる・そんざいする
		空間的配置動詞	そびえている・ひしめきあう
		関係動詞	あいたいする・いみする・ちがう
		特性動詞	およげる・にあう・すぐれる

この中で外的運動動詞は、時間のなかに成立（開始）・展開・消滅（終了）し、場合によっては、結果を残す、ものの動的な運動をとらえている動詞らしい動詞とされている。また、外的運動動詞は〈動作〉か〈変化〉かという観点と、〈主体〉か〈客体〉かという観点を組み合わせて大きく三つに分類されている。これら3つの種類の動詞についてももう少し確認しておく。まず、主体動作・客体変化動詞は、主体（人）の能動的・意志的動作によって、客体（もの）に変化をもたらす動詞グループである。すべて他動詞であり、能動では〈動作継続〉を表す。次に、主体変化動詞は、主体の変化の側面を前面化して、あるいは、主体の変化の側面のみをとらえているものである。基本的に自動詞であり〈結果継続〉を表す。最

後に主体動作動詞は、運動の変化の側面には無関心に動作の側面のみをとらえている動詞である。他動詞も自動詞も所属しているが、動作のみをとらえているものであり、〈動作継続〉を表す。さらに、内的限界動詞と非内的限界動詞に2分類することができることを指摘している。これは〈そこに至れば運動が必然的に尽きるべき目標としての内的限界動詞と非内的限界動詞〉の有無の観点からの分類である。主体動作・客体変化動詞と主体変化動詞の〈変化〉をとらえている動詞は、新たな結果状態を生み出すことによって必然的に終了する運動のタイプであるがゆえに、限界動詞になる。主体動作動詞は、動作とは成立しさえすれば、どこで中止されても動作が成立したといえる、必然的な終了限界のない運動タイプであるがゆえに、非限界動詞であると述べられている。

2.3 複合動詞「～あげる」「～あがる」の担う意味

複合動詞「～あがる」「～あげる」について意味的側面に着目した研究としては姫野（1976）南（2005）が挙げられる。姫野（1976）には「～あがる」「～あげる」の担う意味と結びつく前項動詞について、南（2005）には完了を表すアスペクト用法での自他対応についての記述がある。以下、その要点をまとめておく。

2.3.1 姫野（1976）

(1) 複合動詞「～あげる」「～あがる」の担う意味

姫野（1976）は、「～あげる」「～あがる」の担う意味には表2、表3にあげたものがあるとしている。

複合動詞「～あげる」「～あがる」は自立語としては上昇の意味を持つが、意味が拡張し自立語の意味が喪失しているものもある。本稿ではこのうち完了の意味を持つ「～あげる」「～あがる」を扱う。

完了には、①完成品をとともなう作業活動の完了（「織りあがる・織りあげる」）、②行為の完了（「調べあげる」：ひとまとまりの対象物を～つくす意味）、③自然現象の完了（「晴れあがる」：前項動詞の状態がすっかり表

複合動詞「あげる・あがる」の前項動詞拡張について

表2 複合動詞「～あげる」の分類 (姫野 1976)

1. 上昇	全体的上昇 (全体的な位置変化)	空間的上昇 (例)打ちあげる、振りあげる、運びあげる、担ぎあげる、見あげる、
	自立語としての「～あげる」の基本的意味がそのまま生かされている。	序列の上昇 数量や序列の上昇。 数量に関係のある語と共に使われることが多い。 (例)繰りあげる、切りあげる、競りあげる
	部分的上昇 (部分的な位置変化による形態変化)	形の伸長 主体の頂点の位置は上昇するが基底部は変化しない。物の置き方に関係のある語。 (例)重ねあげる、積みあげる、持ちあげる
	動作・作用の主体の一部が上昇し、その結果全体として見ると形態変化を起している。	形の縮小 主体の基底部が上方へ移動するもの。主体の周辺部が中心に向かって移動するもの。位置変化の結果、人の目に触れる部分が縮小するもの。 (例)巻きあげる、まくりあげる、めくりあげる 量の減少による形の縮小 主体あるいは主体の構成要素の数量的現象に伴って、残余部分と空白の消失部分との間を区切る境界線が上昇し、結果的に形が縮小していくもの。 (例)刈りあげる、剃りあげる
2. 社会的行為	下位者から上位者に対する行為 (例)申しあげる、願いあげる、さしあげる	
	上位者から下位者に対する行為 上方への移動という要素が対人関係 (力関係) の方向性に転用されたもの。話者が自らを低め、相手に対する社会的行為を行うというもの。 (例)買いあげる、借りあげる、召しあげる、巻きあげる、取りあげる	
3. 体内の上昇	人間の生理作用や心理現象に関するもので、この場合の「～あげる」は無意志動詞になる。 (例)むせびあげる、しゃくりあげる、すすりあげる、こみあげる	
4. 完了	完成品を伴う作業活動の完了 人の仕事・作業が完了したことを示す。「完成品」や「仕上がり品」の予想される動詞と結びつく。完成度を示す具体的なものがある。想起できる。 (例)炊きあげる、ゆであげる、蒸しあげる、炒めあげる	
	作業活動の完了 あるひとまとまりの対象物を「つくす」という感じを与える。 (例)調べあげる、数えあげる、並べあげる	
5. 強調	何らかの意図をもって前項動詞の動作を強く完全に行う。 (例)おだてあげる、ほめあげる、おどしあげる、締めあげる、縛りあげる	
6. その他	(例)読みあげる、(声を)張りあげる、(声を)絞りあげる、歌いあげる、描きあげる、引きあげる、切りあげる、入れあげる	

複合動詞「あげる・あがる」の前項動詞拡張について

表3 複合複合動詞「～あがる」の分類 (姫野 1976)

1. 上昇	全体的上昇 (全体的な位置変化)	空間的上昇 空間的な上方への移動。前項動詞は移動動詞や指向性の強い動詞が多い。 (例) 浮かびあがる、浮きあがる、ふきあがる、湧きあがる、駆けあがる
	自立語としての「～あがる」の基本的意味がそのまま生かされている。	序列の上昇 何らかの序列のステップを上昇していく。序列や数を示す語と共に使われることが多い。 (例) 繰りあがる
		地位の上昇 空間的な上昇が社会的地位の上昇へと転用。 (例) のしあがる、成りあがる
部分的上昇 (部分的な位置変化による形態変化)	動作・作用の主体の一部が上昇し、その結果全体として見ると形態変化を起こしている。	形の伸長 主体の頂点の位置は上昇するが基底部は変化しない。上方への移動という強調の意味を添えている。 (例) 起きあがる、立ちあがる、盛りあがる、膨れあがる
		形の縮小 主体の基底部が上方へ移動するもの。主体の周辺部が中心に向かって移動するもの。位置変化の結果、人の目に触れる部分が縮小するもの。 (例) 巻きあがる、縮みあがる、まくれあがる、めくれあがる
		量の減少による形の縮小 主体あるいは主体の構成要素の数量的現象に伴って、残余部分と空白の消失部分との間を区切る境界線が上昇し、結果的に形が縮小していくもの。 (例) はげあがる、抜けあがる、切れあがる (慣用的にしか用いられない。)
2. 完了	完成品を伴う作業活動の完了 人が何かの仕事・作業をすっかり終了し、その結果目の前に期待通りのものが完成している。 (例) 焼きあがる、炊きあがる、ゆであがる、蒸しあがる、染めあがる	
	自然現象の完了 自然現象に関するもので、前項動詞の状態がすっかり表れる。 (例) 晴れあがる、干あがる、酒れあがる	
3. 強調	人間の生理作用や心理現象に関するもので、すっかりそうになってしまうという状態を表す。人間にとって好ましい状態を示すものとは言えない。 (例) 震えあがる、おびえあがる、すくみあがる、むくれあがる、のぼせあがる	
4. 図々しさ	程度を超えて「あがる」図々しさや増長を表す。好ましくない状態を示す。 (例) 思いあがる、つけあがる	
5. 尊敬語	敬意を表す「召す」が結合したもの。 (例) 召しあがる	

れる意味)があるとし、自他対応があるものは①であり、②は他動詞「～あげる」、③は自動詞「～あがる」しか見られないと述べている。

(2) 結びつく前項動詞の特徴

結びつく前項動詞の特徴として、形の上からいうと「勉強する」「愛する」のような「する」を含む動詞とは接続しない。意味の上から、「下降」「分離」「消去」のような意義的特徴を持つ動詞とは結びつかない。また、「あがる」は自動詞・他動詞共に結びつくが、その結果複合動詞は全部自動詞になり（「召し上がる」は例外）、「あげる」はほとんどが他動詞と結びつき、複合動詞も他動詞になる（「しゃくりあげる」など生理作用を示す数語は例外）。①完成品をとまなう作業活動の完了においては、「あげる」「あがる」共に、助詞「を」が取る目的の名詞として同じ文脈で2つか3つの対象が考えられること、つまり目的語に「材料と生産物」あるいは「素材と作品」の関係にある名詞がくることが挙げられている。

(例) 米を炊く

御飯を炊く→御飯が炊きあがる

ペンキを塗る→ペンキを塗りあげる

壁を塗る→壁を塗りあげる

また、「あげる」の場合は「完成品」や「仕上がり品」の予想される動詞と結びつき、「あがる」は人が何らかの技術や労力をふるって作業するという動作動詞と結びつく。

2.3.2 南 (2005)

他動詞「～あげる」と自動詞「～あがる」両方があり対応している複合動詞と、対応する自動詞・他動詞を持たない複合動詞の特徴について述べられているものを表4にまとめておく。

表4 複合自他対応の特徴(南 2005)

<p>自他対応する (編みあげる—編みあがる、 煎りあげる—煎りあがる、 仕あげる—仕あがる…)</p>	<p>質的变化がある。質的な完成である。完成物がみられる・想起される。 (1)a. マフラーを編みあげる。 b. マフラーが編みあがる。</p>
<p>他動詞「～あげる」のみ (しめあげる、鍛えあげる、 つねりあげる…)</p>	<p>動作が極限の状態まで行われ、行為の質が高まることといった、極度や強調の意味を持つ。質的变化が明確である必要がある。</p>
<p>自動詞「～あがる」のみ (怯えあがる、思いあがる、 竦みあがる…)</p>	<p>二格のものであり対象を必要としない。 感情的な質の変化を表す。 (2)恐怖に竦みあがる。</p>

2.4 まとめ

ここまで複合動詞「～あげる」「～あがる」に関する先行研究を確認した。先行研究からわかることをまとめておく。

まず、複合動詞の語構成としては「他動性調和の原則」が注目されるが、後項動詞がアスペクト的意味を持つ場合、違反が認められることもある。複合動詞「～あげる」「～あがる」はもともと上昇の意味を担うものであったが、意味が拡張し、様々な意味を担うようになっている。その中で、本稿で取り上げる完了の意味を持つ「～あげる」「～あがる」は自立語としての上昇の意味を失い、動作性が弱まり、動作・行為が終結することを表すアスペクトとして用法が拡張している。また、「～あげる」「～あがる」に結びつく前項動詞は主体動作・客体変化動詞である。姫野(1976)の複合動詞「～あげる」「～あがる」のリストから、完了の意味を持つ「～あげる」「～あがる」の前項動詞は主体動作・客体変化動詞であることがわかった(編みあげる・編みあがる、炊きあげる…)。主体動作・客体変化動詞は主体(人)の能動的・意志的動作を経て、客体(もの)に変化をもたらす動詞であり、さらに「～あげる」「～あがる」は完了の意味で「完成品」が存在したり、想起できる。(作業活動の完了「調べあげる」などは除く。)つまり「～あげる」「～あがる」が完了の意味を担うのは、プロセスを経て完成する場合であるといえる。そのため瞬間に終わってしまう動作や作用を表し、すでに仕上がった状態を示す瞬間動詞は「～

あげる」「～あがる」には結びつかない。

また、「～あげる」「～あがる」は共にプロセスを経て完成する場合、完了の意味になり得るが、他動詞「～あげる」と自動詞「～あがる」では表し得る焦点に違いがある。他動詞「～あげる」は前項動詞の動作を行い、対象に変化が生じるまでのプロセスと、完成品についての両方を表すことができると考えられる。

(4) マフラーを編みあげる。

(4)では毛糸からマフラーにするプロセスを表していると捉えることも可能であるが、完成品であるマフラーを表しているとも捉えられる。

一方、自動詞「～あがる」の場合、完成品に着目しやすい表現であると言える。

(5) マフラーが編みあがる。

(6) ?毛糸が編みあがる。

(5)では、「編む」という動作は終了しており、対象物である「マフラー」はすでに完成した状態である。したがって(6)のように完成品に変化する前の素材は対象に来ないと予想できる。素材から完成品への変化が明確でないと自動詞「～あがる」が使えないと考えられる。

以上のことから本稿では(I)(II)の観点を重視する。

(I) 「～あげる」は対象に変化が生じるまでのプロセスと、完成品についての両方を表すことができる。

(II) 「～あがる」はプロセスよりも完成品に着目しやすい表現である。

本稿ではまず、先行研究を踏まえて、後項動詞「あげる・あがる」につく前項動詞の拡張とその許容度を確認するためアンケート調査を行う。さらにアンケート調査の結果を踏まえて、用例採集を行い、使用実態を調査する。

表5 アンケート調査項目

前項動詞	後項動詞：他動詞「あげる」	後項動詞：自動詞「あがる」
焼く（他動詞）	A1 魚を <u>焼きあげる</u> 。	B1 魚が <u>焼きあがる</u> 。
調べる（他動詞）	A2 情報を <u>調べあげる</u> 。	B2 情報が <u>調べあがる</u> 。
洗う（他動詞）	A3 洗濯物を <u>洗いあげる</u> 。	B3 洗濯物が <u>洗いあがる</u> 。
鍛える（他動詞）	A4 体を <u>鍛えあげる</u> 。	B4 体が <u>鍛えあがる</u> 。
食べる（他動詞）	A5 晩ご飯を <u>食べあげる</u> 。	B5 晩ご飯が <u>食べあがる</u> 。
走る（自動詞）	A6 100mを <u>走りあげる</u> 。	B6 100mが <u>走りあがる</u> 。

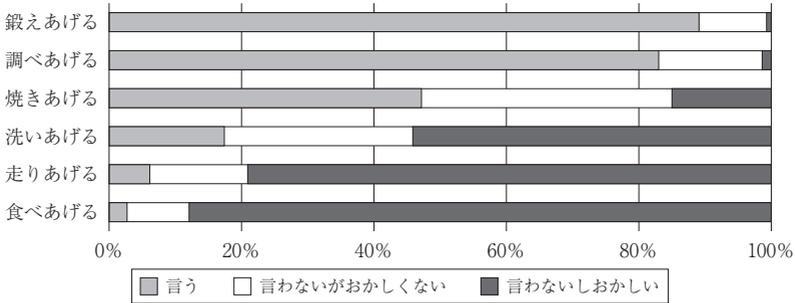
3. アンケート調査

3.1 調査概要

Google フォームのアンケート機能を用いて複合動詞「～あげる」「～あがる」の許容度について調査した。回答者は若年層149人である。複合動詞「～あげる」「～あがる」を含む例文について、「言う」「言わないがおかしい」「言わないしおかしい」から当てはまるものを選択してもらった。調査項目は表5に示したA1～A6、B1～B6である。

調査項目は姫野（1976）の複合動詞「～あげる」「～あがる」のリストから「焼きあげる」「焼きあがる」「調べあげる」「洗いあげる」「鍛えあげる」を設定した。「調べあげる」「洗いあげる」「鍛えあげる」は対応する自動詞「～あがる」がないため派生させ、「調べあがる」「洗いあがる」「鍛えあがる」を設定した。また、「食べあげる」「食べあがる」「走りあげる」「走りあがる」はリストには掲載されていなかったものである。なお、「焼きあげる・あがる」「鍛えあげる・あがる」「洗いあげる・あがる」は完成物が想定される例文で、「調べあげる・あがる」「食べあげる・あがる」「走りあげる・走りあがる」は、完成物は想定されないがノルマが設定できるもの、つまりその動作が完了する終結点が設けられる例文である。

図1 他動詞「～あげる」



3.2 調査結果・分析

3.2.1 他動詞「～あげる」自動詞「～あがる」の集計結果

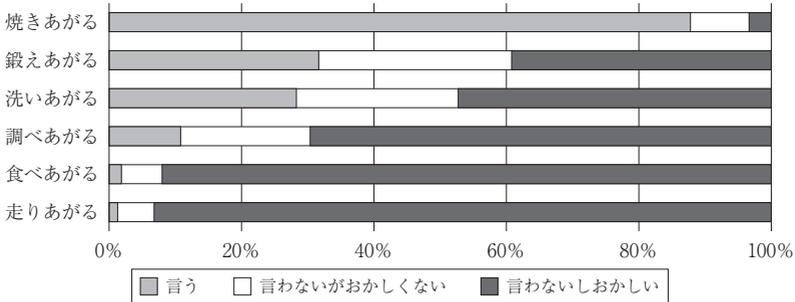
図1は他動詞「～あげる」の集計結果である。

図1の中で許容度が最も高いのは「鍛えあげる」である。これは2.3で述べた重視する観点のうち(I)が関わっていると考えられる。「～あげる」はプロセスも完成品を表せる表現で、A4ではどちらとも取ることができる。そのため「～あげる」を使用する必然性が感じられ、許容度が高くなったといえる。次に許容度が高いのは「調べあげる」である。これは姫野(1976)で述べられている「～あげる」の意味の中で「作業活動の完了」にあたる。完成品を伴わないが、あるひとまとまりの対象物を「つくる」という感じを与える。A2でいえば、「情報」を調べつくる意味合いを感じ取れるため許容度が高くなったと考えられる。「焼きあげる」の「言う」の割合は約50%と上の二つより低い結果となった。A1では完成品を想起することは可能だが、完成に至るまでのプロセスは想起しにくいいため許容度が50%ほどになったのではないだろうか。これを(7)のように「弱火で」などの修飾語句を入れ、焼くプロセスをわかりやすく明示すると許容度が高くなると考えられる。

(7) 魚を弱火で焼きあげる。

このことから「～あげる」は完成品もプロセスも表すことができるが、プロセスにより着目しやすい表現である可能性がある。「洗いあげる」は

図2 自動詞「～あがる」



「言う」の割合が約20%という結果になった。これは対象物を完成品と捉えにくいからだと思われる。A1では、例えば「魚」に焦げ目がついているなどのわかりやすい変化があるが、A3では洗い終わった後の洗濯物にわかりやすい質的な変化はなく、完成品と捉えづらいのではないだろうか。

このことからプロセスも完成品も表せる「～あげる」の場合、プロセスと完成品の両方を読み込めるものが最も許容されやすく、どちらか一方が読み込みにくいと許容度が下がると考えられる。「食べあげる」「走りあげる」は共に許容度が低いという結果になった。これは前項動詞「食べる」「走る」が主体動作・客体変化動詞ではなく、主体動作動詞であるからだと考えられる。主体動作動詞であると同時に非内的限界動詞であり、必然的な終了限界がないためそもそも完了の意味を持つ「あげる」と結びつかない。また、「食べあげる」「走りあげる」共に許容度は低いですが、「走りあげる」の方が許容度が高い。これは動作の終了を想定しやすいかどうかに関係していると考えられる。A5では対象に「晩ご飯」を取り、A6では「100m」を取る。「晩ご飯」よりも「100m」のほうが対象をノルマとして捉えやすく、動作の終結点が想起しやすいのではないだろうか。

図2は自動詞「～あがる」の調査結果を表している。図2によれば、「焼きあがる」が最も許容度が高いという結果になった。次に「鍛えあがる」「洗いあがる」の「言う」の割合が約30%、「調べあがる」は約15%、「食べあがる」「走りあがる」は5%未満という結果になった。これは「～あ

がる」は完成品に着目しやすいという観点の(II)が関係していると考えられる。「焼きあがる」は対象に「魚」を取り、「生魚」から「焼き魚」への変化があり、完成品が想起しやすい。「鍛えあがる」は対象に「体」を取り、素材から完成品への変化が分かりにくいいため「焼きあがる」より許容度が低くなったのではないだろうか。「洗いあがる」も同様の理由だと考えられる。

また、このことから「鍛えあがる」の許容度に「完成品」が関わっているとすれば、「鍛えあげる」はプロセスにより着目していたといえる。他動詞「～あげる」の考察で「鍛えあげる」は完成品もプロセスも両方表せ、他動詞「鍛えあげる」では両方を読み込むことができるため、許容度が高くなっていると指摘した。しかし「鍛えあげる」「鍛えあがる」共に完成品を表すことができるはずだが、完成品への変化がわかりにくい「鍛えあがる」の許容度は低くなった。よって、「鍛えあげる」は完成品よりもプロセスに着目していたため許容されやすくなったと考えられる。「調べあがる」はそもそも完成品を伴わない。B2における対象物は「情報」であるが、「調べる」動作が終了しても「情報」には変化が生じない。よって、許容度が低くなったと考えられる。

「食べあがる」「走りあがる」は他動詞「～あげる」の考察でも述べたように前項動詞が主体動作動詞である。さらに完成物を伴わない。よって、許容度が低くなったと考えられる。

3.2.2 「～あげる」「～あがる」の許容度のクロス集計

ここで同じ前項動詞を取る「～あげる」「～あがる」において、同じ回答者で他動詞「～あげる」自動詞「～あがる」の許容の仕方に差があるのか、その傾向を確認するため表6を作成した。表6は同じ前項動詞を取る「～あげる」「～あがる」において、他動詞「～あげる」を許容できる人、もしくはできない人がもう一方の自動詞「～あがる」を許容できるかどうかを値と割合で示したものである。例えば、表6-1は「焼きあげる」を言う(○)人で「焼きあがる」も言う(○)人は69人で46%である。同じ要領で前項動詞「鍛える」「洗う」「調べる」「食べる」「走る」についても表を示しておく。

複合動詞「あげる・あがる」の前項動詞拡張について

図6 「～あげる」「～あがる」の許容度のクロス集計

表6-1 焼きあげる／焼きあがる

		焼きあがる		
		○	△	×
焼きあげる	○	69 46%	0 0%	1 1%
	△	43 29%	11 7%	2 1%
	×	19 13%	2 1%	2 1%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

表6-3 洗いあげる／洗いあがる

		洗いあがる		
		○	△	×
洗いあげる	○	19 13%	2 1%	6 4%
	△	11 7%	18 12%	13 9%
	×	13 9%	16 11%	51 34%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

表6-5 食べあげる／食べあがる

		食べあがる		
		○	△	×
食べあげる	○	1 1%	1 1%	2 1%
	△	1 1%	3 2%	10 7%
	×	1 1%	5 3%	125 84%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

表6-2 鍛えあげる／鍛えあがる

		鍛えあがる		
		○	△	×
鍛えあげる	○	45 30%	37 25%	50 34%
	△	1 1%	6 4%	9 6%
	×	0 0%	0 0%	0 0%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

表6-4 調べあげる／調べあがる

		調べあがる		
		○	△	×
調べあげる	○	15 10%	19 13%	90 60%
	△	1 1%	10 7%	12 8%
	×	0 0%	0 0%	2 1%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

表6-6 走りあげる／走りあがる

		走りあがる		
		○	△	×
走りあげる	○	1 1%	2 1%	6 4%
	△	1 1%	3 2%	18 12%
	×	0 0%	3 2%	115 77%

- ：言う
△：言わないがおかしくはない
×：言わないしおかしい

(1) 「焼きあげる」「焼きあがる」

表6-1において、「焼きあがる」「焼きあげる」共に「言う」の割合は46%と約半数を占めている。また、「焼きあげる」の「言わないがおかしい」も入れると87%と高い割合となっている。「焼きあがる」を「言う」と選択した人で、「焼きあげる」を「言わないしおかしい」を選択した人は13%、反対に「焼きあげる」を「言う」と選択した人で、「焼きあがる」を「言わないしおかしい」を選択した人は1%である。このことから「焼く」において、「焼きあがる」の方が許容されやすいことがわかる。

(2) 「鍛えあげる」「鍛えあがる」

表6-2は「鍛えあげる」「鍛えあがる」について表したものである。「鍛えあげる」を「言う」と選択した人の中で、「鍛えあがる」を許容できるかどうかはほぼ三割ずつでかなり均等に分かれている。このことから「鍛えあがる」は許容している人と許容できない人が混在しており、変化の過渡的な段階にあると言える。

(3) 「洗いあげる」「洗いあがる」

「洗う」は「洗いあげる」「洗いあがる」ともに「言わないしおかしい」を選んだ人の割合が約三割と一番多くなったが、全体的に解答がある。両方「言う」を選択している人も13%確認することができる。許容されるプロセスとしては自動詞「洗いあがる」から許容する人もいれば、他動詞「洗いあげる」から許容する人もいる。「洗いあげる」「洗いあがる」共に許容されていなかったが段々許容されつつあると言える。しかし「洗いあげる」は姫野(1976)の複合動詞リストに掲載されており、先行研究では適格であるとされている。本来ならばもう少し許容度が上がってもおかしくない。今回の調査では許容度が低いという結果になったが、これは例文によるものだと考えることができる。修飾語句をつけたりした場合、許容度が変わる可能性がある。実際に使用されている用例を確認し、どのような文脈で言いやすくなるのか確認する必要があるだろう。

(4) 「調べあげる」「調べあがる」

「調べあげる」が「言う」で「調べあがる」が「言わないしおかしい」を選択した人が60%と半数以上を占めている。「調べあげる」「調べあがる」はアンケート項目では対象に「情報」を設定した。上でも述べたように「調べる」の場合、完成品が存在しない。「～あがる」はすでに完成品がある状態を示すため、「調べあげる」が言えて「調べあがる」が言えないという割合が高くなったと考えられる。

(5) 「食べあげる」「食べあがる」

「食べあげる」「食べあがる」ともに「言わないしおかしい」を選択した人が84%と一番多くなった。次に割合が高いのが「食べあげる」が「言わないがおかしくない」、「食べあがる」が「言わないしおかしい」の組み合わせである。「食べあげる」の方が許容されやすいという結果になっている。「食べる」は対象に「晩御飯」を設定した。「～あげる」は完成品を表すこともできるが、対象に変化が生じるまでのプロセスを表すこともできる。「～あがる」は完成品に着目しやすくなるため、「晩御飯」を食べ終えた後の食べ物がなくなった状態を完成品と捉える必要がある。プロセスと捉えるよりも、完成品と捉える方が困難であることが考えられる。しかし16%の人は「食べあげる」「食べあがる」の少なくともどちらかを許容している。これは「食べる」という動作に「食べ終わり」という局面を読み込める場合、許容されると考えられる。

(6) 「走りあげる」「走りあがる」

「走りあげる」「走りあがる」ともに「言わないしおかしい」を選択した人が77%と一番多いという結果になった。低い割合ではあるが、次に高いのが「走りあげる」が「言わないがおかしくない」、「走りあがる」が「言わないしおかしい」の組み合わせである。これは対象である「100m」というノルマは完了より前に存在しているものであるからだと考えられる。「100m」というのは走る前の段階から設定している。「走りあがる」は完成品に着目し

やすい表現であるので、「100m」を完成品として捉える必要がある。ここまで結びつけるのは困難であるため、「走りあがる」が言えない割合が高くなったのではないだろうか。「～あげる」の方が意味拡張を起こすのは、ノルマが設定されるタイプの対象を取るか、ノルマを達成させるプロセスを「～あげる」が表していて、それがアスペクトの表現を果たすからだと考えられる。

ここまでの分析・考察を踏まえて、次では Twitter の高度な検索を用いて、実際の用例ではどのように使用されているのか調査する。

4. Twitter の高度な検索による用例採集調査

4.1 調査概要

アンケート調査での分析・考察をもとに、実際の用例を確認しどのような文脈において使用されやすいのか、それぞれの特徴を調査する。

検索エンジン：Twitter の高度な検索

検索日：2020年12月7日

検索対象：アンケート調査の複合動詞12個を最新のツイートから上位30件検索した。なお、完了の意味でないものは除外した。「調べあがる」は8件しか確認できなかったため、過去形「調べあがった」も検索し30件の用例を採集した。「走りあがる」は完了の意味で用いられているものは確認できなかった。

表記：「漢字+あげる／あがる」「漢字+上げる／上がる」「ひらがな+あげる／あがる」の形で検索した。「調べあがる」の過去形は「漢字+あがった」「漢字+上がった」「ひらがな+あがった」で検索した。

4.2 調査結果・分析

調査結果を大きく二つの観点から考察していく。一つ目は対象物についてである。二つ目は共起しやすい語句についてである。二つ目の観点はさらに細かく共起しやすい語句の種類ごとに①副詞、②終了時点を表す時間

図7 対象物の種類と値

	人	身体	その他	表記なし
鍛えあげる	12	4	10	4
鍛えあがる	1	17	6	6

的表現、③ノルマ、④手段や方法、⑤「つくす」意味を強調する語句の5つに分けて考察を行う。

4.2.1 対象物

まず、対象物について2つの観点から考察を行う。1つ目は対象物の種類についてである。「焼きあげる」「焼きあがる」は対象に「食べ物」を取っているものしか確認することができなかった。一方で「鍛えあげる」「鍛えあがる」は、対象に「人・身体・精神」など様々な種類を取ることが確認できた。その中で特徴的であったのは「鍛えあげる」は対象に「人(弟子・子供・あなたたち…)」(30件中12件)をよく取り、「鍛えあがる」は「身体(肉体・腹筋・上腕三頭筋…)」(30件中17件)をよく取るということである。図7に30件中の対象物の値と、(8)(9)に用例を示しておく。

(8) 付いてくる弟子を鍛え上げる (Twitter の高度な検索：検索キー「鍛え上げる」／しゃ→ぶ@l_w_n_z 2020年9月17日)

(9) 肩が鍛え上がる (Twitter の高度な検索：検索キー「鍛え上がる」／つむさんnext One@SpecialUnkoMan・2020年10月4日)

「鍛えあげる」が対象に「人」を取る(8)の場合、対象である「弟子」はまだ変化が終了していない状態である。対象に変化した後の状態の「弟子」は取りづらい。つまり、対象に人名詞を取る場合は「鍛える」という行為をする前の出発点のほうに着目しやすく、そこから変化するまでのプロセスを思い浮かべやすい。「鍛えあがる」が対象に「身体」を取る(9)では、対象である「肩」はすでに「鍛える」という行為を終えた後の状態であり、「肩」を完成品として捉えることができる。「体」を対象に取った場合は、後の状態を想像しやすいのではないだろうか。このことから「～あげる」はプロセスを表すこともできるため、「鍛えあげる」は「人」を

対象に取りやすく、「～あがる」は完成品に着目しやすいので、「鍛えあがる」は「体」を対象としやすいと考えられる。

次に対象を明示するかどうかの観点から考察を行う。「焼きあがる」は対象を明示することが多く、「焼きあげる」は明示しないことが多いという特徴がみられた。対象を明示しないことが多いのは、完成品より「焼く」というプロセスを表す意味で使用しているからだと考えられる。プロセスに着目しやすいため、わざわざ対象を明示しなくても違和感がないのではないだろうか。一方で「焼きあがる」が対象を明示しやすいのは「～あがる」が完成品に着目する表現であるからであろう。

4.2.2. 副詞

副詞と共起することが多いものとして「焼きあがる」「洗いあがる」「洗いあげる」「鍛えあげる」が挙げられる。以下に用例を示しておく。

- (10) ブリは厚めにカットするとふわふわに焼きあがるみたいだね
(Twitter の高度な検索：検索キー「焼きあがる」／一品入魂ゴチ処 彩こう@in_saikou 2020年12月7日)
- (11) クレンジング洗顔はさっぱり洗い上がる！(Twitter の高度な検索：検索キー「洗い上がる」／ちひろ@chihiro3xoxo・2020年11月20日)
- (12) 【カウブランド 青箱 (さっぱり)】ソフトな泡立ちでさっぱり洗い上げる石けん。(Twitter の高度な検索：検索キー「洗い上げる」／♡絶対的冪コスメ♡@zettaicosme・2020年12月27日)
- (13) かわいいだなんてんふ♡もっと笑ってムキムキに鍛え上げるわ ('ω') おおお (Twitter の高度な検索：検索キー「鍛え上げる」／世m兎 1週間可愛い脱強化週間(???) @usahana101・2020年12月7日)

この特徴が見られる理由としては、自動詞「焼きあがる」「洗いあがる」においては、「～あがる」は完成品に着目しやすいため「ふわふわに」「さっぱり」など対象がどのような状態に達するのかを示すためだと考えられる。一方で他動詞「洗いあげる」「鍛えあげる」でも副詞と共起

しやすいという特徴がみられた。これはプロセスと完成品の両方を表すことができる「～あげる」では完成品に着目させたい場合、副詞と共起させることによって完成品に意識が向きやすくなるのではないだろうか。また、多くは見られなかったが、「調べあがる」においても完成品の状態を示す語句と共起しているものが確認できた。

- (14) かっこいい感じに調べ上がったけどご飯とかちゃんと食べれるの少ないかもwwwカフェめぐり多すぎてwww (Twitter の高度な検索：検索キー「調べ上がった」／⁷⁷마리¹²⁷@callmemari08・2015年12月8日)

(14)の場合は「かっこいい感じ」が完成品の状態を示していると考えられるため、「調べあがる」に完成品を読み込める。本来「調べあげる」は完成品を伴わないはずだが、「あがる」と共起することによって完成品を表すことができるようになっていていると考えられる。

4.2.3 終了時点を表す時間的表現

「焼きあがる」「鍛えあがる」「洗いあがる」において、「まで」「もうすぐ」のような時間を表す表現と共起しているのが見られた。以下に用例を示しておく。

- (15) クロワッサンの生地に巻かれてるフォロワー可愛い 焼きあがるまでバイバイね (Twitter の高度な検索：検索キー「焼きあがる」／襟立衣@nagia_yp・2020年12月17日)
- (16) 鍛えあがるまで足止めです。(Twitter の高度な検索：検索キー「鍛えあがる」／ふー @fuhh_game・2020年11月10日)
- (17) 洗濯物がもうすぐ洗い上がるので、それ干したら、出掛けよう (Twitter の高度な検索：検索キー「洗い上がる」／symphony@symphony1113・2020年12月7日)
- (18) 洗濯の極意はな…洗いあがるまで本を読んで待つ事だ…… (Twitter の高度な検索：検索キー「洗いあがる」／カカシ先生 @kakashi_h_b・2020年12月17日)

これは「～あがる」はプロセスを経て出来た完成品に着目する表現であるため、終了時点を示す「まで」や「もうすぐ」と共起しやすいと考えられる。しかし同じ時間を表す表現でも(19)(20)のような決まった時間や期間（以下、共にまとめて期間と呼ぶ）を表す表現とは共起しにくいと思われる。実際の用例でも確認することはできなかった。

(19) *パンが焼きあがる間、掃除をする。

(20) *30分間パンが焼きあがる。

このことから「～あがる」は終了時点のみをピックアップし、そこに焦点をあてる表現であるため、期間を表すものとは共起しにくいと考えられる。一方で「～あげる」は終了時点を表すものとも、期間を表すものとも共起し得る。今回の調査では確認できなかったものの、「～あげる」の持つ性質的には共起する可能性を示しておく。例えば(21)のように決まった期間と共起させた場合、(20)よりまだ許容されやすくなると予想される。

(21) ? 30分間パンを焼きあげる。

このように予想できるのは「～あげる」はプロセスを表すこともできるためである。プロセスも取り出せるため、その動作・行為にかかる時間を表す期間とも共起し得る。また、完成品を表すこともできるので「～あがる」と同じく終了時点を表すものとも共起し得る。つまり「～あげる」はプロセスも終了時点も取り出せて、「～あがる」は終了時点のみをピックアップする表現であると言える。そのため、終了時点を表すものは「～あげる」「～あがる」とも共起し得るが、ある期間を表すものは「～あげる」しか共起しないと考えられる。「鍛える」「洗う」でも同様に考えられる。

(22) *1年間体を鍛えあがる。

(23) *1時間洗濯物を洗いあがる。

4.2.4. ノルマを表す語句

ノルマを表す時間や量や範囲と共起しやすい動詞が確認できた。これに当てはまる動詞としては「洗いあげる」「調べあげる」「調べあがる」「走りあげる」「食べあげる」「食べあがる」が挙げられる。用例は以下の通りである。

- (24) 普段1分で洗い上げる業務用を使ってるだけに洗いすぎに45分もかかるの…? って方がもともとネックだったんだけど寝てる間とか外出中に洗ってくれるだけで贅沢やんゲンナイ。(Twitterの高度な検索: 検索キー「洗い上げる」/ みかん@w_mikan・2020年11月30日)
- (25) モブキャラとか全部調べあげる必要あるのか…_(: 3) ∠)_ (Twitterの高度な検索: 検索キー「調べあげる」/ 月影 朧@Mistmoon_Oboro・2020年12月4日)
- (26) 一分もあれば調べ上がるし計算も出来る作業をあのポンコツ後輩ちゃまは午前中いっぱい使ってもできないのはなんでだ (Twitterの高度な検索: 検索キー「調べ上がる」/ こんは推しがお亡くなりになりやすい@kon4141kon4141・2017年10月5日)
- (27) アンコール2回やるし端から端まで走りあげるし、恋愛ジャンキーからの愛の病はあがるあがる (Twitterの高度な検索: 検索キー「走りあげる」/ がわ@gawansa・2018年8月13日)
- (28) 私だったら3日で食べあげるよ (Twitterの高度な検索: 検索キー「食べあげる」/ なごみrelanagomi@re753ryujin_123・2020年11月28日)
- (29) 3分で食べ上がるとは…神技だ…(<) (Twitterの高度な検索: 検索キー「食べ上がる」/ ゆか@yuka__332・2018年6月16日)

4.2.3で期間を表すものと「あがる」は共起しづらいはずであると指摘したが、「一分」や「3分」のように「あがる」と共起しているものがみられた。これは確かに時間を表す表現ではあるが、(30)(31)のように純粋な期間を表すものと共起させた場合は許容度が下がると予想される。

(30) ? 1分間調べあがる。

(31) ? 3日間食べあがる。

このことから、「～あがる」は純粋な期間を表すものとは共起できないと考えられる。(26)(29)が許容されやすいとすると、動作・行為を達成するというノルマのようなものとして時間が設定されていれば「～あがる」でも

許容されやすくなるといえる。さらに、「洗う」「調べる」「走る」「食べる」はすべて完成品を伴う動詞ではないため、これらの語句を付けることによってノルマや動作の終結点を想起しやすくしているとも考えられる。

4.2.5 手段や方法を表す語句

「焼きあげる」において手段や方法を表す語句と共起しやすいという特徴が見られた。3.2「焼きあげる」の許容度についての考察で、完成に至るまでのプロセスが想起しにくいと許容度が下がり、プロセスをわかりやすく明示できれば許容度があがることを指摘した。実際に用例で(32)(33)のように手段や方法を表す語句を付けることで、プロセスを想起しやすくしている用例が確認できた。

- (32) 強火で焼き上げるとこうなるんよ (Twitter の高度な検索：検索キー「焼き上げる」／satellite🌀@22/7 初リプ大歓迎@Satellite0526・2020年12月7日)
- (33) かん吉清水店では背開きして蒸さずに炭火で一気に焼き上げるハイブリッド工法を採用しています。(Twitter の高度な検索：検索キー「焼き上げる」／【静岡】かん吉清水店 GOTOeat 使えます 鰻職人【鰻屋】・2020年12月7日)

同じ他動詞「～あげる」でも手段や方法を表す語句と共起するという特徴は「焼きあげる」に顕著に表れ、「調べあげる」には30件中1件とほとんど見られなかった。これは「調べる」は完成品を伴わないため、わざわざプロセスに着目させるような語句をつける必要がないからだと考えられる。

4.2.6 「～つくす」意味を強調する語句

「調べあげる」において「徹底的に・隅々まで・色々と・全部」などの語句と共起する用例が多く確認された。以下に用例を示しておく。

- (34) 徹底的にリペイント調べ上げる (Twitter の高度な検索：検索キー「調べ上げる」／One@One619hebotter・2020年12月7日)
- (35) 脱法ヒビ警察だ！ これは色々と調べあげるの必要がありそう

だ (Twitter の高度な検索：検索キー「調べあげる」／いづな@Izuna_Hatsuse_・2020年12月6日)

- (36) 1000年前と人体が変わっている可能性があるから念の為隅々まで調べあげる宿…………… (Twitter の高度な検索：検索キー「調べあげる」／Chi春@yohakuuu・2020年12月4日)

これは姫野 (1976) で述べられているように、「調べあげる」にあるひとまとまりの対象物を「つくす」という感じがあるため、これらの語句とともに用いることによってさらに「～つくす」意味を強調しているのだと考えられる。

5. おわりに

本稿では、後項動詞「あげる・あがる」につく前項動詞の拡張について明らかにするため、アンケート調査と用例採集調査を行い、先行研究の指摘をもとに分析・考察を行った。アンケート調査と用例採集調査の結果をまとめると次のようになる。

アンケート調査から完了の意味で許容されやすいのは「鍛えあげる」「調べあげる」「焼きあがる」であることがわかった。これらはほぼ完了の意味が定着していると言える。「焼きあげる」「洗いあげる」「洗いあがる」「鍛えあがる」「調べあがる」においては段々と許容されつつある表現であることがわかった。「食べあげる」「食べあがる」「走りあげる」「走りあがる」はまだ完了の意味での許容度が低いが、許容している人も見受けられるため、これから許容が進む可能性のある表現だと考えられる。許容されていくプロセスとしては他動詞「～あげる」から許容されているのがわかった。「～あげる」の方が意味拡張を起こしやすいのは、ノルマが設定されるタイプの対象を取るか、ノルマを達成させるプロセスを「～あげる」が表していて、それがアスペクトの表現を果たすからだと指摘できる。

また、他動詞「～あげる」が完了の意味を持つ場合は、プロセスも完成品も表すことができる。そのためプロセスと完成品の両方を読み込めるも

のが最も許容されやすく、どちらか一方が読み込みにくいと許容されにくくなる。完成品を想起することができても、完成に至るまでのプロセスを想起しにくいと許容されにくくなるため、よりプロセスに着目しやすい表現であると言える。自動詞「～あがる」においては、完成品が重要視されることがわかった。完成品を伴わない動詞や、完成品を想起しづらい場合は許容されにくくなることから、完成品が大きく関係していると言える。このことから他動詞「～あげる」は、プロセスを経て対象物が変化するということが読み込める前項動詞と結びつきやすく、完了の用法で意味が拡張し得る。自動詞「～あがる」は完成品を伴わない前項動詞とは結びつきにくく、完成品に着目できる場合、意味が拡張し得る。

さらに、用例採集調査から終了時点を表す時間やノルマを表す語句と共に起こさせることにより、限界点をわかりやすくしているものが確認できた。このように終了時点を示すことで動作の局面を表すアスペクト用法として使用しやすくなることがわかった。

本稿では12個の複合動詞を取り上げ、調査対象とし分析考察を行ったが、複合動詞「～あげる」「～あがる」はほかにも多く存在する。そのため本稿で見出した結論を一般化できるとは言い難い。他の複合動詞「～あげる」「～あがる」についてさらなる考察が必要であると思われる。これは今後の課題としたい。

参考文献

- 影山太郎 (1993) 『文法と語構成』 ひつじ書房
影山太郎 (2013) 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』 ひつじ書房
工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』 ひつじ書房
田辺和子 (1996) 「日本語の複合動詞の後項動詞にみる文文化」『日本女子大学 紀要 文学部』 45
姫野昌子 (1976) 「複合動詞・「～あがる」, 「～あげる」および下降を表す複合動詞類」『日本語学校論集』 3
南明世 (2015) 「複合動詞「V1-あげる」「V1-あがる」のアスペクト用法における自己対応についての一考察」『日本語教育研究集会予稿集』 第13回日本語教育研究集会